令和2年度 磐田市立磐田中部小学校 学校評価書

評価指標 ・・・学校評価アンケートの項目、番号は、学校評価アンケートの項目番号
割合・・・学校評価で「強くそう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童・保護者・教師の平均値(単位は%) 前年比：緑は増、赤は減
自己評価・・・昨年度と今年度の割合を比較したり、今年度の教育活動を総括したりして総合的に評価

	重点項目		番号	評価指標	割合	自己評価	考察・改善
知育	学び合う喜びを実感する子 （目標数値80%） ・対話が生まれる授業の実践 ・学び合う方法の充実 ・図書資料、人材の活用 ・家庭学習の充実 ・場の設定	学習理解	11	基礎基本的な学力が身に付いている	90	A	〇学習理解について 「みんなで『できる・わかる』楽しい授業」という研修テーマの基、ユニバーサルデザインの考え方を授業に取り入れていることが、基礎学力の定着につながっている。今後は、児童一人に一台ずつに貸与されるタブレット端末を活用したり、対話が生まれるよう授業改善を行ったりして、さらなる学力の定着を目指していく。 〇読書について 昨年度と比較して、朝読書の時間を増やしたが、読書に進んで取り組むことに関しての数値は横ばいである。親子読書を行ったり、学年だより等でおすすめの本を紹介したりして、家庭にも読書の呼び掛けを行っていきたい。 〇学習指導について 新学習指導要領が全面実施となり、教員も工夫して授業を実施した。評価も新たに変わったため、確実な評価ができるよう年2回の評価を継続する。
			13	学習内容を理解している	92	A	
			12	家庭学習の習慣が身に付いている（学年×10分＋10分）	84	B	
		学習方法・態度	14	進んで聞いたり調べたりして学習している	79	B	
			25	友達の考えを自分の考えと比べなら聞く	80	B	
			23	進んで読書をしている	76	B	
		学習支援	16	教師は、よく分かるよう工夫して教えている	92	A	
徳育	自他の良さや違いを認め、自分も相手も大切にする子 （目標数値85%） ・集団としての力を高める ・特別活動、学級活動で育てる ・一人一人を見取る生活指導	学校生活	1	楽しく学校に通っている	96	A	〇学校生活について １学期は臨時休業が続いたが、休業明けから多くの子供たちが元気よく登校し、楽しく学校生活を送ることができた。コロナウイルス感染症の対策を十分に取り、子供たちが伸び伸び学校生活を送ることができるよう環境を整えていきたい。 〇異学年交流について 磐田中部小の子供たちが楽しめるようにと、魚のイラストを壁面に貼って学校水族館を作ったり、プロジェクト活動で様々な企画を考え実行したりするなど、高学年児童が中心となってイベントを考えた。間接的ではあるが異学年交流を活発に行うことができた。コロナ禍でも、できる範囲で交流を実施していきたい。 〇挨拶について 数値は昨年度に比べ増加はしているが、まだまだ低い。コロナ禍において大きな声での挨拶は難しいが、目を合わせて挨拶したり会釈したりするなど手立てをとり、挨拶に対する意識を向上させていきたい。 〇歌うことについて コロナ禍においての歌声発表会の実施は難しいため、校内で、音楽の授業で学習した器楽の演奏を聞き合う場を設け、音楽に親しませていきたい。
			6	学級(学校)には、互いにルールを守り、協力する雰囲気がある	90	A	
			3	異学年交流に、生き生きと楽しく活動に取り組んでいる	79	B	
			5	進んで声を出し、歌うことを楽しんでいる	72	C	
		児童理解	17	教師は、子供のことを理解して指導にあたっている	93	A	
		人間関係作り	8	進んで気持ちのよい挨拶をしている	71	C	
			2	相手の気持ちを考えた、あたたかな言葉づかいをしている	89	A	
			26	自分や友達の良さに気付き、大切にしている	92	A	
			7	学校に相談できる人（先生や友達）がいる	93	A	
体育	めあてに向かって粘り強く取り組み、心身ともに健康な子 （目標数値80%） ・健康を育む保健教育と食育 ・命を守る防災、交通安全 ・めあてに向かって運動する力の育成	健康	27	健康的な生活(食事や体調管理)に意識し元気に過ごしている	95	A	〇健康について コロナ禍において、健康面への配慮、給食の指導など難しかったが、感染症対策に留意しながら、その都度、柔軟に対応できた。 〇運動について スポーツフェスティバルや国分寺マラソン大会など、体育的行事を中止にするのではなく、できる方法を探り開催できた。子供たちもめあてに向かって運動に取り組めた。
		運動	28	運動のめあてに向かって努力している	90	A	
		生活習慣	4	基本的な生活習慣が身に付いている	85	B	
			21	規則正しい生活をしている（早寝、早起き、朝ごはん）	92	A	
開かれた学校	地域と共にある学校 ・コミュニティスクールの推進 ・PTA活動の活性化 ・学校運営協議会の充実 ・いずみサポーターズ(学校支援ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ)	連携	22	保護者や地域からの協力を得て教育活動を進めている	97	A	〇いずみサポーターズを新設し、掛け算九九サポーター、草刈りサポーター、見守り声掛けサポーターなどを地域の方にお願いし、地域や保護者の方の力を得ることができた。 〇学府の取組を紹介する学府だよりを発行し、家庭も一体となって学府の子供を育てていこうとする意識を高める手立ての一つとなった。
			9	小中一貫教育で取り組んでいることを知っている。	73	B	

学校関係者評価委員から	〇子供の表情が非常に明るい。発表の声も大きく、きちんとできている。子供たちに寄り添って指導しているなと強く感じた。中部小の多くの子は一中に進むので、学府のねらいも徐々に達成されていくと思う。 〇見守りサポーターとして、朝の挨拶をしているが、次第に目が合い、子供たちから声を掛けてくれるようになってきた。少しずつ学校内に入り、先生でも親でもない地域の人間が斜めの関係として子供たちに関わっていきたい。でも、急がず、細く長い活動になっていけばよいと思う。 〇子供たちは明るいが、不安がある子もいるはず。聞いてもらうと少し元気がでる。いずみサポーター室ができて、先生でない人に、ちょっとでも話を聞いてもらえることができるとよい。 〇コミュニティスクールの良い取組を広報していけば、地域も学校もより活性化していくのではないか。	学校関係者評価を受けてのまとめ	〇子供に寄り添った指導をさらに行っていきたい。また、なかいずみ学府の子供たちを、こども園、小学校、中学校の12か年で育てていくという意識を高めるとともに、保護者や地域の方へもその取組ついて伝えていく必要がある。 〇来年度は、いずみサポーターズの活動をさらに活性化させていきたい。また、サポーター室を設けることで、サポーター活動の拠点とし、地域と学校と子供たちをつなぐ場としていきたい。 〇ホームページやメール配信などを活用して、コミュニティスクールの取組を発信していく。保護者と地域、そして学校が一体となってなかいずみ学府の子供たちを育てていきたいと考える。